

## 第2回山岳部利用対策協議会後の新高塚小屋のTSSトイレに関する動き

### 1. 環境省から大成工業に問い合わせ（12月19日）

- ・新高塚小屋のTSSトイレに関する経緯や現状に関する資料を提示して、下記2点について問い合わせた。
  - 1) 多雨、下層植生がない周辺環境、最大宿泊者数200人、施工スペースを込みで敷地面積は80㎡という現状にTSSで対応することは可能か。
  - 2) 対応可能な場合、具体的にどうしたらよいか。

### 2. 大成工業担当者との協議（1月26日）

- ・屋久島自然保護官事務所にて、大成工業の担当者（安藤氏）と問い合わせ内容について協議。安藤氏の説明概要は下記のとおり。
  - 1) TSSについては、今ある規模をどうするかという話は別にして、携帯トイレの利用や臨時にトイレを設置するなどの混合式で運用することを前提に、機能回復をさせる案がある。
  - 2) 現場での管理を上手くすることで、80人規模の施設を正常に機能させることはできるかもしれないが、200人の利用に対応するためには利用者数の制限などで対応するしかない。
  - 3) 80人規模の施設を200人の利用に対応させることはほぼ困難。
  - 4) 物理的に施設の規模を大きくすることは難しいうえ、今ある施設を2倍の規模にすることは無理。
  - 5) 土壌処理槽に屋根を設置しなければいけないなど、なかなか厳しいというのが印象。

### 3. 大成工業の回答（1月29日付）

- ・提案書という形で、大成工業から回答を得る（別紙1）。提案の概要は下記のとおり。
  - 1) 廃止・他の方式への全面移行ではなく、調査と再利用のための措置をとる。
  - 2) 大幅な大改造、大增設を行わなくても利用可能な状態に持っていける可能性が高い。
  - 3) オーバーユース時の見極めとその時の一時利用停止、または携帯トイレでの補完を工夫すれば、十分使用可能になると判断。
  - 4) 土壌処理法に根本的な原因があって、多雨に不適という結論ならば科学的に実証する必要がある。
  - 5) どのような利用ピークで機能不全に至ったのか検証しデータを集めておくことで、今後の技術革新と情報共有が可能になる。
  - 6) 9項目の技術的な補修と整備を提案。
  - 7) 維持管理体制については、地元の人々の協議と合意のなかで、独自のシステムがつけられるのが理想であり、大成工業としては「屋久島学ソサエティ」と連携し、地元の「山のトイレ研究会」結成の動きと協力して、お手伝いできれば幸い。

### 4. 新高塚小屋TSSトイレに関する要望書と意見書の提出（2月2日付）

- ・「屋久島学ソサエティ」から、環境省九州地方環境事務所に要望書（別紙2）が提出された。
- ・「ガイド有志」から、山岳部利用対策協議会における協力依頼の文書（別紙3）が提出された。